

オンライン

2021. 10. 14

「オンラインとリモートの違いを小学4年生に説明してください」と言われたらできるだろうか。以前の私ならば答えは「いいえ」である。本校でも、いよいよ本格的にオンライン学習を進めるにあたって、さすがに勉強した。

「オンライン」とは、端的にいうと、インターネットにつながっている状態のことである。店舗に行かずにインターネット上で買い物をすることをオンラインショッピングという。旅行に行くときの交通手段やホテルの予約もインターネットを使ってできるようになり、オンライン予約という。オンラインの対義語は「オフライン」である。言葉の通りOFF（切る）でインターネットにつながっていない状態のことである。

「リモート」とは、複数の対象が離れている状態のことである。離れた、遠隔のという意味がある。リモコンで考えると分かりやすい。リモコンはリモート・コントローラーの略である。遠隔操作のことである。ラジコンもドローンもインターネットに接続しているわけではない。リモートには、遠く離れた場所から何らかの指示を出すというニュアンスがある。

では、本校をはじめ様々な学校で行われるようになった学校と家庭を結ぶ授業は、オンライン授業なのかリモート授業なのか。インターネットやスマホ、パソコンなどが当たり前になった現代において、リモートで何かをするといった場合はオンラインでするという場合がほとんどであろう。そう考えれば、どちらも正解であり、大きな違いはないといえる。インターネットを使ってという部分を強調したい場合はオンラインを、遠隔で行うという部分を強調したい場合はリモートを使えばいいように思う。

今のところ、大学の授業も小学校、中学校、高等学校の授業も「オンライン」の方を使っている。一方、テレビでは「リモート」の方を使っている。

オンライン授業なのか、オンライン学習なのかという問題もある。これも今のところ、全部の生徒が家庭にいて、学校から先生がオンラインで行ったものは、授業とは認められていない。したがって、この場合は、オンライン授業ではなくオンライン学習と呼ぶのがいいと考える。例えば、半分の生徒が学校にいて、半分の生徒が家庭にいる。この状態で、学校からオンラインで行ったものは授業として認められる。これは、オンライン授業と呼べばよい。

大学では、学生が自宅におり、教授などの先生がリモートでオンライン授業を行っている。これは、授業として認められているからできることである。それが、小・中・高では認められていない。これでは、オンラインやリモートが進むわけがないだろうという問題がある。

本校では、オンライン学習もオンライン授業も行った。同時に分散登校による対面授業も行った。ハイブリッドな学習を進めたことになる。ニュアンスから考えると、オンラインが当たり前、前提のこととなり、リモート学習や授業と呼ぶようになるのがいいということかもしれない。

小学4年生に、果たして説明できるか。結局のところ、どちらでもよく、さほどの違いがないことを説明するのは、なかなか骨の折れることである。用語は何となく使うのではなく、意味や違いを分かった上で使いたいものである。